

令和3年度 金次郎を学ぶ会

昭和初期の世相と二宮尊徳

～二宮尊徳没後八十周年の風景～



一軍に敗れた吉田克彦を、戦況に訪ねると受命の石井先生が折返す午休みに、軍政中の吉田君を

なかぐの
勉強家

一等の吉田君



報徳
入門

二宮先生の事業と遺跡



二宮尊徳翁八十年祭記念會



日時：令和3年7月11日（日）午後1時30分～3時00分

会場：小田原市尊徳記念館 3階 講堂

主催：小田原市教育委員会

入場無料（定員80名）：先着順、当日会場まで直接お越しください

お問い合わせ：小田原市尊徳記念館 0465-36-2381

※新型コロナウイルス感染症対策のため、マスクの着用、手洗いと検温にご協力ください。

※今後の感染症の拡大状況によって開催が延期または中止となることがあります。

第1章 続く不況と近づく戦争

尊徳が亡くなってから80年目の昭和10年（1935年）は、昭和恐慌による大不況と第二次世界大戦の勃発との中間にあたる不安定な時期でした。尊徳の教えが求められた当時の世相を探ります。

第2章 全国各地の記念事業

昭和10年10月18日、尊徳の没後80周年を記念する祭典が東京の神宮外苑で開催され1000人近い人々が集まりました。あわせて、全国各地でも祭典や講演会などの行事が開催されました。ここでは当時の各地の様子を概観します。

第3章 神奈川県下の記念事業

尊徳の出身地である神奈川県でも尊徳没後80周年に関する様々なイベントが開催されました。県下各地の小学校や生誕地である小田原を中心に、各所で催された行事の様子を見ていきます。

第4章 祭のあと

尊徳没後80周年の祭典が終わったのちも、神奈川県下では顕彰活動が継続して行われていました。やがて第二次世界大戦が現実のものとなると、こうした活動は戦時体制を支えるためのものへと変質していきます。

◎表面掲載の資料

左上：二宮尊徳顕彰作文で一等賞を獲得した児童の紹介記事
（『横浜貿易新報』昭和10年10月10日 神奈川県立図書館蔵）

左下：佐々井信太郎 『報徳入門 二宮先生の事業と遺跡』表紙
（小田原市尊徳記念館蔵）

右：小田原で開催された「尊徳翁八十年祭」リーフレット表紙
（神奈川県立図書館蔵）

